

平成29年度法人全体の事業報告
法人全体の活動の成果と課題

1 コミュニティーガーデン四季の里の施設建設が完成

- ① 平成28年10月より生活介護事業所ハーモニーの建設にとりかかり、平成29年に完成。
4月より定員を10名から20名に増員して五色園施設から新築移転。
当初の利用者見込み一日平均15名を上回り、18名で出発。
- ② 平成29年10月より共同生活援助事業所なしの木ホームの建設にとりかかり、平成30年3月に完成。5月7日より入所定員6名でホームの支援開始。親なき後の自立生活支援が開始された。社会福祉法人ポレポレの法人設立時の10か年計画が2年短縮して実現した。短期入所事業は、グループホームの安定を見て開始することとなった。

課題 新施設が建ったことで、より保護者や地域の注目度が高まっている中、今まで以上の期待が社会福祉法人ポレポレにかかってくると思われる。その地域の期待に応えるべく社会福祉法人として内容の深い支援をつくることが今以上に問われている。

2 まつりをつくりだす力を見ることができた「金沢翔子書道展と国際絵画巨匠展・第5回ひかりの人々展」そして地域への大きな宣伝となった。

- ① 生活介護事業所の新施設建設記念として6月24日（土）～6月26日（月）に開催。
- ② 実行委員会が結成され、運営にあたった。日程を追った計画・当日の進行と企画・宣伝活動・人員配置など一つの催しを成功させるための組織的活動が展開された。職員がポレポレ最大のこの企画を成功させたことは、地域とつながるポレポレの今後に大きな財産となった。
- ③ 父母懇や、利用者の保護者の方々がスタッフとして参加をして下さり、成功を支えた。
- ④ 金沢翔子さんの揮毫への人気もあり、来場者は1,034名。
新施設を多くの市民の方々に知っていただく機会となった。
- ⑤ 「企画は多くの参加者を募ることによって成功する」という視点が貫かれたことは大きな学びであった。日程を追った宣伝物の作成と配布のための確認等活動の中にしっかりと「情宣活動」が位置付けられて進行していたことを今後の教訓としたい。
- ⑤ 祭りを作り出す力が平成30年度の第1回ポレポレ祭りと第12回おもしろ体験子屋へとつながりを見せていることは大きな成果と言える。

課題 当日、企画を安全に組織的に運営する側と現場で市民の声と直接対峙したスタッフとで齟齬が生じた。市民の不満を残すことは後々まで冷たいイメージとして残ることを考慮して、できるだけ多くの皆さんに満足していただくものにするという視点で、当日は想定外のことも起こりうるということを企画段階から討論していく必要があった。この視点が今後に生かされば素晴らしいことである。

3 寄付金活動はつまるところやさしい地域社会をつくる活動であった。

- ① 平成26日8年8月から本格的に始めたこの活動は、平成30年4月の段階で1670万円の寄付金が寄せられた。3000万円目標の50%を超える額となった。
- ② 現在寄付者の人数は延303名に達している。
- ③ なぜ多くの方々が寄付を寄せてくださったのか。

イ ポレポレが、この地域に障害福祉サービスの資源をつくり、障害者の方々の夢や希望の実現に勇気をもって立ち向かっていく姿に対し、共感をしてくださる人々が寄付を寄せ

てくださった。

- ロ 「障がいがあろうとなかろうと人は皆同じ、障害者も地域で皆と共生をし、人として当たり前に生きる社会がやさしい社会」という福祉の考えに共感し、その実現に自らも寄付という形で応援しようとする利他のこころを持つやさしい人々が多くいることを知ることができた。
- ハ 寄付金活動は、日常のつながりが重要であったり、その目的を知れば、共感・支援をして下さる方々が広くいることも分かった。
- 二 企業からの献金や寄附を募ることはできなかったが、利用者やご家族、地域の人々、知人等の日常のつながりを基盤とし、誠実に行動してきたポレポレの方向が寄付金活動につながっていることが大変教訓的であった。
- ホ とすると「申し訳ない」という思いが優先され、ためらいがちになる寄付活動だが、実は、信頼を込めて呼びかけることにより、かえって信頼関係を深めるという事もあり、それがやさしい地域社会づくりにつながるのだと確信することができた。

課題 ① 障害者の人々への支援に直接参加して下さる人々を増やしていく寄付金活動は、やるやさしい街づくりにつながる活動だとわかった今、3000万円目標の達成の意義を再確認する必要がある。

- ② 寄付をして下さった方々への感謝と礼を尽くすことができていない。ここに心をはせる活動を組織的に作る必要がある。

4 利用者や父母のニーズに応え、安心と信頼を受ける福祉サービスはできていたか

- ① イ 放課後等デイサービスでは、3つの事業所の各事業所とも、放課後の児童が学校を終えてから地域や家庭で体験できるとよいと思われる楽しい活動を創意工夫してカリキュラムにしたり、子ども自身がやりたいと思う自主的な活動を見守り、寄り添うなかで、一人一人の生きる力である身の自立や生活力及びコミュニケーション能力・社会性等をみつめていく取り組みが深まりつつある。又、児童発達事業所においても同様である。
- ロ 上記4つの事業所に共通して、教材準備や環境整備に時間を割いて療育の効果を生み出していることと、個人面談・アセスメントシート作成・モニタリング・個別支援計画が計画的に行われる中で父母の安心と信頼をうける努力がされてきている。
- ハ 事業所間の連帯も進み、年間合同企画が4月の段階で決まる・5月には、年間合同研修計画が決まる等、職員間のコミュニケーションと計画的で組織的な努力が見られ、この力は、今後の質的強化に大きく影響をあたえていくと思われる。
- ② イ 生活介護事業所においては、施設の移転と8人の卒業生の同時受け入れ、喫茶の開店への対応、そして就労継続支援B型事業所においては、職員の入れ替わりによる新体制の対応等の中で、全体的な日常活動の流れをつくる努力が進められた。
- ロ 就労継続支援B型事業所においては、個々の支援について、「24時間を見据える」という視点から、事業所の中で見えたことで事業所では解決できないと思われる重要な点について、職員間が話し合い、個々の個別状況を機敏に書面化し相談支援センターに送り、センターとの意思疎通の中で新しいサービスにつなげ、問題が解決され、事業所の支援もやりやすくなるという努力が見られている。その中で、家族との連絡や合意も強化されている。

課題 ① 障害者の方々がどのような職員さんと出会うかで幸せ度が違ってくるといわれることが

あるが、ポレポレの職員の皆さんが大変な思いで日々利用者さんと向き合い対峙し、あたたかい支援にあたっていることは間違いない。

しかし、今一つ利用者のニーズやご家族のおもいに耳を傾け、その中から一人一人の人生を見据えて、その時々によどのような個別の支援が必要なのかを文字として作成し、職員間で共有していくことができていない事業所も見られる。

- ② 「面談・アセスメントシートの作成・モニタリング・個別支援計画作成・職員間の共有」の取り組みが期日を定めて計画的に行われることで、父母の信頼も高まり、ひいては支援の効果も深まることとなるので、次年度の最重要課題としてすべての事業所が力をつけるように取り組む必要がある。

5 職員の待遇改善や働きやすい職場づくりは進んだか

- ① 29年度、法人としては下記の改善に取り組んだ。

イ 非常勤職員の時給の改善 860円から900円にアップ

ロ 社会福祉士・介護福祉士・保育士の時給 860円から960円にアップ

ハ 超過勤務手当支給のマニュアル作成と実施

ニ 平成30年度実施に向け、職員の職務の明確化とスキルアップを目指した給与体系改善の協議をすすめた。

上記改善を進める中で、仕事へのやりがい。定時に帰宅できるための体制づくりや仕事を段取をもって進めこなしていくスキル。職員間の円滑なコミュニケーション。努力や福祉へのスキルが認められる賃金制度など、働く者にとって、働きやすい職場づくりとは何かを考えるきっかけの一年となった。

課題 ① 非常勤職員の時給、特に保育士の時給は、福祉事業への企業の参入により高額となっており、ポレポレでは、29年度は非常勤職員の待遇を改善したものの、企業には及ばない。社会福祉法人が企業の時給を出そうとすれば、経営的に大きな負担となり、継続をも脅かすものになってしまう現状である。低いところには、職員も集まらないという厳しい時代になってきている。

国は、軍需費は大幅に増やす一方で、福祉予算は大幅に削ってきている。企業のような大きな資本がない社会福祉法人は、その収入が定員と単価で決められているため、職員の待遇改善は思うように進められない。そのような中で社会福祉法人の職員が誇りをもって働くことができる職場づくりが大きな課題となってきた。

- ② ポレポレはここまで、地域にささえられ、地域とつながって歩みを進めてきた。地域の人々から支援を受けようとする地域とつながる活動もまた重要であるがそれには多くの時が裂かれる。又、仕事をなしとげようとする定時ではおわらないことも多い。仕事の質的向上と職員の超過勤務手当・そこからくる経営への圧迫と限界。そこをどのように解決していったらよいのか答えが見つからないという状況である。

6 地域や父母との共生はどのようにすすめられたか

イ 第11回「ともまなびセミナー」まちを学校に・・・おもしろ体験子屋

9月9日（土）開催・ポレポレは共催団体として2講座を受け持つ。1000名の受講者で市民の中に少しずつ根付いてきた。市民講師・ボランティアスタッフ・市内商店の広告協賛の支援・学校でのチラシ配布等市民共同の活動となっている。

ロ わとと

土曜の余暇活動として月 4 回実施。料理・音楽・工作・ウォーキングと毎週の企画を充実している。利用登録者が増え、毎回定員となるが定員で申し込みを断る状況が続いている職員間の打ち合わせ時間の確保が課題。

ハ 地域の方々が職員として支えてくださるホームが開始

世話人 8 名・生活支援員 5 名 夜勤職員 5 名という職員が配置された。ほとんどが地域の方々に構成された。

ニ コミュニティーガーデン四季の里の施設建設と環境整備を実現する会

ハーモニーの父母が中心になり 2 年の活動が経過・次のステップに向かおうとしている。

ホ ハーモニー祭り

生活介護事業所ハーモニーが父母と利用者さんとの交流・みんなで楽しいひと時を過ごす。

ヘ ふれあい交流会

就労継続支援 B 型事業所ポレポレハウスが利用者と父母と職員の交流をしたいとの目的で当事者と父母と職員が世話人会をつくり第 1 回の交流会を行う。

ト あじさいの植樹と畑づくり、ホームのニス塗り

4 月 21 日（日）コミュニティーガーデン四季の里にボランティアさんと職員で 100 本のあじさいを植樹、同時にホームのニス塗り、畑づくりもおこなった。

ヘ 各種地域のイベントへの要請に応える

ポレポレのお好み焼き・シフォンケーキなど、地域のまつりの要請に応じて販売を行った。香久山盆踊り大会・日進芸能祭・私学サマーセミナー・三井団地まつり・日進子ども芸能祭・日進ニュータウン自治会の祭り・龍泉寺のまつり

地域共生の活動の成果

グループホームの職員 18 名のうち、ハローワーク経由で勤務して下さった職員は 1 名のみ。あとはおもしろ体験子屋の講師や野菜作りでご支援いただいた方の知人の皆さんが 1 日でもよければと集まってくださった。職員がいなくて事業所が立ちいかなくなるという話を聞く昨今、おもしろ体験子屋やイベント参加など、いままでの「地域とつながるポレポレの活動スタイル」が障害者を支えることにつながったと言える。大きな教訓と自信を持つことができた。

7 職員の資質向上にむけてのとりくみは進んだか

イ 外部職員研修参加

サービス管理責任者講習 3 名受講 資格取得

ロ 法人内研修

職員の質の向上が求められている中、職員間の報連相の考え方をもう一度見直し、皆で働きやすい環境を作り出していけるように、基本となるコミュニケーションの研修を下記のとおり実施しました。

当日研修参加者数 46 名（職員 50 名中 事前欠席連絡者 3 名、当日欠席者 1 名）

I. 日 程 平成 30 年 3 月 31 日（土） 9 時から 12 時まで

II. 場 所 日進市民会館 2 階会議室

III. 講 師 株式会社日本教育クリエイト 三幸福祉カレッジ

IV. 研修内容 対人関係構築コミュニケーション研修

ハ レポートの提出

研修を受けた際には、研修報告書を上長に提出する制度にはなっているが、報告書を提出するという意識が職員の中で希薄なため、日常業務の忙しさを理由に提出しなくて良いと勘違いをしている職員が多かったので、3月の研修で大方の職員には意識付けすることができた。

レポート提出者 参加者 46 名中 43 名提出

但し、若干名の研修未提出者と提出日を過ぎての提出者が大半だったので、締切を遵守するという意識付けが課題として見えてきた。

8 ポレポレを支える体制の強化はどこまで進んだか

イ 組織体制の強化

次長職を廃止し、下記のような組織強化を行った。

児童福祉法の事業所担当施設長 澤田勢津子

障害者総合福祉法の事業所担当施設長 改田真美

事務局長 松島弘治

統括施設長 石井好恵

理事長 伊藤宣子

ロ 職員募集

ハローワークをはじめ自社ホームページでの求人、又、有料求人媒体の「タウンワーク」、「とらば一ゆ」、「はたらいく」への掲載や無料求人媒体の「INDEED 無料掲載枠」、「EN ジャパン無料掲載枠」、人材紹介バンクへの求人登録など、インターネット活用世代を見据えて、情報の露出度を上げることで、求人採用につながりやすいシステムを導入した。

9 定員確保のとりくみはどうだったか。

平成29年度も定員確保の取り組みが具体的にできなかった。平成30年度は組織体制も少しずつ強化されてきたことを踏まえ、情宣物の定期発行を行い、特別支援学校や地域の関係機関に定期的に訪問し、利用者の確保につなげる。

就労継続支援B型事業所 ポレポレハウス

1. 利用者状況

(定員 20 人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所 日数	20	20	22	22	20	21	23	22	20	21	19	22	252
延利用 者数	308	304	307	306	261	312	314	294	286	271	273	311	3547
1日 平均数	15.4	15.2	14	13.9	13.1	14.9	13.7	13.4	14.3	12.9	14.4	14.1	14.1

(1日平均利用者数 14.1 人)

*利用者の他事業所への移籍があり、昨年度より登録人数が減少した。

新規利用者 7月から1名(知的 男性) 2月から1名(精神 女性)

2. 平成29年度の活動報告

① 作業内容

- ・食品製造(お好み焼き、ケーキ、みたらし、焼きそば弁当等)、販売を中心として引き続き行っていた。
- ・新たな作業の取り組みとして、軽作業(内職)を取り入れた。

② 合理的配慮での視覚化

- ・作業の内容や分担など1日の流れが分かるようにボードで提示することにより、自主的に利用者が動けるようにした。

③ 各部署の作業の充実化

- ・4部署に各担当者が配置されたことにより、作業の充実化を計ることができた。

④ 地域に密着した販売活動と販売網の拡大

- ・日進市地域福祉計画が取り組んでいる地域の人たちの自主運営で始まった「ほっとカフェ」の2カ所販売網を拡大することができた。

3. 成果

- ・軽作業を取り入れたことにより、作業の分業化で、利用者の特性を生かし出来る作業を増やすことができた。
- ・役割分担をすることで、作業に対して責任を持って行うようになってきた。
- ・ボードに作業内容や分担などを提示することによって、利用者一人ひとりが1日の流れを把握することができ、支援員への問いかけの言葉が減少してきた。
- ・作業の内容が充実されてきたことにより、利用者が主体者となって自主的に動けるようになった。

った。

- ・以前より職員が増えたことで、支援員と利用者とのコミュニケーションをよりしっかり取ることができるようになってきた。そのことにより、今まで見えてこなかった利用者の生活全体がわかるようになってきた。

4. 見えてきた課題

- ・作業が充実されてきた一方で、利用者の生活面が浮き彫りになってきた。そのため生活への支援の重要性が不可欠となってきた。
- ・定員20名確保するためにニュースやパンフレットを作成し、各行政や学校へ宣伝し新規利用者確保につなげていく。
- ・工賃アップのために、販売の方法を工夫し販売網の拡大をしていく。

生活介護事業所ハーモニー

利用者状況（定員 20 名 契約者数 25 名 平成 30 年 3 月 30 日現在）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
延利用者数	376	376	403	383	350	360
開所日数	20	20	22	22	20	21
1日平均利用者数	18.8	18.8	18.3	17.4	17.5	17.1

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
延利用者数	385	385	361	321	314	384	4398
開所日数	22	22	21	20	20	22	252
1日平均利用者数	17.5	17.5	17.2	16.1	15.7	17.5	17.5

平成 29 年度事業報告

① 活動内容

生産活動

29 年 4 月に定員を 20 名とし授産活動を行う作業班を 5 班で構成した。

1. 工房班①：自社ブランド Zatta 雑貨の商品開発、商品製造を行いゆったりとしたリズムで自分らしく生活する
 2. 工房班②：各々が得意とする作業でハーモニー内で生活をし、その中で自分の個性を伸ばしていく
 3. 紙すき班：29 年 4 月から新規に利用を開始された方たちの班、主に紙すき作業を行い、社会人としての生活リズムを身に着ける
 4. PC 作業班：事業所通信の作成や、事業所内の名刺の受注、外部企業から委託される内職作業を行う。社会での生活を意識し様々なことにチャレンジする
 5. 喫茶班：ハーモニー内でオープンした喫茶店(カフェテラス Tree & Tree)内でのお菓子作りを行う。
- 作業班は以上の 5 班に分かれた。

販売活動

29 年度も日進市内のイベントにて雑貨の販売を行い、事業所の収入源になった。喫茶店内にも授産商品の販売コーナーを併設したので、喫茶店との相乗効果を狙った販売活動が着手できはじめた。

喫茶店では地域の方の認知の向上を目指し、のぼりをたてたり、チラシを配るなど今後につなげる活動に力をいれている。

余暇活動

29 年度は生活リズムの確立を目標にして、作業班毎の日課を確定してきた。

午後の活動では創作活動や運動を行いメリハリのある生活を目標に活動している。

② 成果

生産活動では各作業班ごとに作業の確立が進んできており、授産商品の安定した供給が可能になってきた。喫茶店は少しずつではあるが地域の方に認知していただけており徐々に客足も伸びてきている。名刺の作成も法人内では認知していただけており、少しずつではあるが売り上げにつながってきている。

販売活動では日進市内のイベントに精力的に出店したこともあり認知度も上がり、売り上げも徐々に増えてきた、喫茶店内の販売ブースもおおむね好評をいただいている。

余暇活動では創作活動や運動は日常生活のメリハリにつながっており、ハーモニーを利用したいと思う要因にもつながっている。

③ 課題

生産活動では工賃の確保を目指し、更なる商品の拡充を目指す。また高価格帯の商品も今後増やしていき、ハーモニー商品のブランディング活動にも力を入れていく。

販売活動では商品の販売経路の確保は常の課題であり、喫茶内の店舗の拡大や外販売も視野に入れている。

余暇活動においてもさらなるプログラムの充実を目指し、職員の技能の向上を目指した研修も組みこんでいきたい。

支援力の向上は課題になっているので、利用者のアセスメントやモニタリングをサービス管理責任者の元、職員全体で取り組んでいき、提供サービスの更なる充実も目指していく。

④ 次年度の目標

新事業所に移転して、二年目を迎えるハーモニーはすべての活動の安定、向上、利用者の人員確保を目指し活動を行っていく

さらに生産活動の一環として畑作業・農園作業にも取り組んでいく。

放課後等デイサービス デイサービスポレポレ

1. 利用状況

定員 10名、登録者数

15名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所 日数	20	20	22	21	21	21	22	22	21	20	20	22	252
延利 用者 数	118	126	146	163	154	167	169	166	151	134	148	156	1798
1日平 均利用 者数	5.9	6.3	6.6	7.8	7.3	8	7.7	7.5	7.2	6.7	7.4	7.1	7.1

※平成30年3月31日現在

【新規利用者】4月から1名（えがおから移籍）、5月から1名、6月から1名、7月から2名、10月から1名

※今まで利用のなかった東郷町から4名の新規利用者登録があった。

※個々の利用日数が全体的に増えてきたが、昨年度と比べて登録人数の減少したことにより、1日平均利用者数は伸びなかった。

2. 活動報告

（1）自立した日常生活を営むために必要な支援

①環境を整える

リビングを主活動の場、和室を休息の場とすることで、やるべきことにきちんと取り組める環境を整えた。なかなかみんなと同じ空間に入れない利用者でも、活動の様子を見に来たり、少し遅れて参加したりと、それぞれができる形で主活動に取り組むことができた。

②スケジュールの視覚化

リビングに全体の1日のスケジュールをイラストと文字で提示し、個々のロッカーにも個人のスケジュールボードを提示した。個人のスケジュールボードは以前から提示していたが、なかなか機能していなかったことから、全員がスケジュールボードを見て確認して行動に移せるような工夫をした。スケジュール項目ごとに、やるべき場所に箱を設置し、その箱にカードを入れることでやるべきことを行うようにした。こうしたことで、全員がスケジュールボードを見るようになり、その日の予定を確認することができるようになった。

また、1週間の予定も帰りの会の際に伝えるようにし、先の予定も把握できるように工夫した。これもスケジュールの提示同様、イラストと文字で提示し、みんなが見て理解できる形をとった。それにより、先の予定が気になる利用者也予定を確認することで安心できている様子がかがえた。

③ワークシステムを整える

主にクッキングではイラストや文字を使って調理工程を示し、見通しをもって調理に取り組めるようにした。調理工程は文章で伝えるのではなく、簡潔に分かりやすく提示した。また、個々の作業ボードも用意し、それぞれが担当すべき工程を理解できるようにした。それにより、自分が何をすべきなのかが分かり、落ち着いて活動に参加できるようになった。

④見える形で分かりやすく伝える

文字やイラストだけでは提示できない部分でも、実物や写真を交ながら提示することでより理解を深めることができるようにした。それにより、以前は文字でしか提示できなかったものも実物や写真があることで理解できるようになった場面も増えてきたように感じる。

⑤ルーティンの活用

昨年度に引き続き、曜日ごとの主活動を固定したことで、事業所に来て何をするのか分からず混乱することはなくなった。また、個人のスケジュールボードの活用方法を工夫したことで、今まで支援員の声掛けで行動に移していた利用者也、徐々に自分でボードを見て行動に移せるようになってきた。

(2) 交流の機会の提供

今年度も祝日営業日には同法人の放課後等デイサービス「げんき」「えがお」「デイサービスポレポレ」が合同で行事を企画し、異年齢児童との交流を図ることができた。昨年度よりも他事業所に利用者や支援員と関わりを持とうとする利用者が増え、楽しく過ごすことができていた。

(3) 余暇支援・社会参加の支援

毎週火曜日の運動では愛知池にウォーキングをしに行ったり、障害者スポーツセンターのプールに行ったりして、身体を動かしながら公共の施設を使用するルールも学べるようにした。

また、主に長期休みには様々な場所に出かけ、社会体験ができる機会を設けた。車でのお出かけだけでなく、公共交通機関を利用してのお出かけも行った。なかなかご家庭では出かけることができない利用者が多く、良い機会となっているとの声も多く聞かれた。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総利用者数	134人	139人	156人	155人	131人	151人	154人	160人	165人	138人	134人	157人	1774人
開所日数	20日	20日	22日	21日	21日	21日	22日	22日	20日	20日	20日	22日	251日
1日平均利用者数	6.7	7.0	7.1	7.4	6.2	7.2	7	7.3	8.3	6.9	6.7	7.1	7.1

3. 今後の課題

- ・1日の利用者平均の減少が続くため、新規利用者の獲得や個々の利用日数を増やしていく。
⇒「ポレポレハウス」や「ハーモニー」と連携し、作業体験を行ことで卒業後の進路先の活動イメージができるようにしていく。
- ・1人1人が活躍できる場を設ける。
⇒発言力や行動力のある利用者だけでなく、なかなか自分から発言・行動できない利用者も能力を発揮できる場を設け、全員が活躍できる場を作っていく。(帰りの会の際には、全員が今日あった出来事を話せるよう、コミュニケーションツールを使用していく、等)

放課後等デイサービス えがお

利用者状況 (定員 6 人 登録者数 16 名 平成 30 年 3 月 31 日)

平成 29 年度 事業活動

今年度も言葉遣いや社会性、実体験による経験の幅を広げることを大切にしながら、「子どもたちの出来た」という体験を増やしていけるように支援した。また、将来、社会に出ていく上で、身に付けておいてほしい能力が少しでも獲得できるようにと願いながら支援を行った。

今年度も曜日ごとに行う活動を分けて運動、工作、クッキング、アイロンビーズ、など様々な活動を行った。工作やクッキングでは、個々の能力に合わせた活動を取り入れ、一人一人の利用者に配慮しながら支援を行ったが、簡単すぎて飽きてしまう子どもいたため、プログラムを見直し飽きずに参加できる活動を模索してきた。

集団遊びでは、ボッチャなどの遊びを取り入れ簡単なルールで誰でも一緒に遊べるよう

な活動を行った。活動中の友だちとの意見の食い違いなどはなるべく子どもたちで解決出来るよう見守り、状況に応じて、介入し助言を行ってきた。長期休暇には、リニモの乗車体験や買い物に行く体験を行い、お金の使い方や電車の中での過ごし方を学んだ。

また、個別支援計画を送迎後の時間などを利用して確認を行い、その中で、個々の課題を職員間で共有してきた。

①成果

- ・送迎後の時間などを利用して、個別支援計画を確認する時間を設けてきた。その結果、以前よりも個々の課題などを職員間で把握することが出来るようになってきた。
- ・子どもを中心に集団遊びができることも増えてきた。

②見えてきた課題

- ・子どもたちの情報共有をさらに密に行う。
- ・子どもたち、個々のニーズに合った支援の確立。プログラムの見直し。

放課後等デイサービス げんき

1 利用者状況 (定員 10人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所 日数	20 日	20 日	22 日	21 日	21 日	21 日	22 日	22 日	20 日	20 日	20 日	22 日	251 日
延利用 者数	152	161	177	168	168	178	173	175	158	158	148	169	1985
1日 平均数	7.6	8	8	8	8	8.4	7.8	7.9	7.9	7.9	7.4	7.6	7.9

(1日平均利用者数 7人)

<利用状況>

昨年より新6年生を「えがお」にステップアップするという事で保護者との話し合いで送り出していましたが、29年度は対象者が1名だったこと障害特性から考えもう一年「げんき」ですごしてもよいと判断し「げんき」に在籍しました。新規には東小の1年生1名三好養護一年生1名がはいりました。

2 29年度の活動

- ・利用者状況としては、登録が21名。1日の平均は7～8名で活動の活動になりま

した。

- ・週間予定を決め活動することができました。工作においては、その月に関連した工作を決め全員が取り組み、持ち帰り保護者に見ていただきました。
クッキングについては、全体的に低学年が多いため簡単な内容で行いましたが、家庭でもお手伝いをしているとの保護者からの声も聞かれ、少しの体験だとしても子どもたちにとっては貴重な時間になっていると感じました。
- ・年々学年が上がることで、下校時間が 6 時間になると「げんき」に来るのが 4 時まわるときもあり、郊外活動に出かけるのが年々減少しているので、園庭に ترامポリン、鉄棒を出して運動できるようにした。集団遊びのはじめの一步や縄跳びなど取り入れた。
- ・誕生日会、本の読み聞かせは引き続き行った。
- ・夏休み・・・東山動物園、リニモ体験、外食体験といろいろな体験を実行しました。
- ・祝日を営業日とし三事業所合同企画を立て活動しました。
- ・保護者面談を 2 回行うことができました。

① 成果

- ・週間予定を決めたことで、活動内容が充実してきている。
- ・利用者が 5 年生、3 年生が多く、活動の動きにまとまりがあった。
- ・利用者同士での遊びが出来るようになる。活動に広がりが出てきた。

② 見えてきた課題

- ・全体の活動はまとまってきたが、障害特性をふまえ、個別に対しての活動への支援内容の検討が必要になってきている。
- ・低学年に対する活動の内容を増やす。
- ・平均を 10 人にするための定員確保。

3 その他

- ・職員確保
- ・放課後等デイサービスの研修に参加
- ・週 1 回のミーティングを行い、3 事業所間での協力体制を作る。(送迎・環境整備・合同行事企画)
- ・保護者との連携

1 利用者状況 (定員 4人 登録者数 12名 平成30年3月31日現在)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所 日数	9	14	12	13	11	11	13	13	12	11	11	11	141
延利用 者数	31	56	38	39	31	41	55	54	57	43	57	49	581
1日 平均数	3	4	3	3	3	4	4	4	5	4	5	4	4

(1日平均利用者数 4人)

<利用者状況>

- ・年度はじめは、2日(月・火)の2日間開所でしたが、6月から体験を受け入れ利用者が増えたため水曜日も営業日とする。それに伴い職員おパートを1名採用した。

2活動報告

① 成果

- ・保育園や幼稚園に通いながらの利用者に対しては、通っている園との連携を支援センターの相談員と話し合い、問題があると速やかに聞けるようになった。
- ・療育の幅を広げるための砂場が設置でき、子供たちは砂遊びを通じて、友達とも関わりや砂を触れるなど五感への働きにより心や体への成長へと繋げていった。
- ・昨年と同様、曜日ごとに利用者の特徴に合わせて曜日設定をしたので、療育内容が統一できたことで、利用者の成長がよくわかった。
- ・3歳児に対しては、幼稚園、保育園への就園を視野に入れ、就園に必要な課題だしを行い、療育を進めることができた。
- ・なかよしに3歳から通い、就園が難しかった利用者が年長さんに上がるタイミングで就園に繋がるところが出来た。
- ・保護者に対しての支援として2回の面談とお茶会を行った。

② 見えてきた課題

- ・日進市の基幹センターとの連携が不可欠だが、相談員の入れ替わりもあり、なかよしからの積極的なアプローチが必要。
- ・多機能型施設のえがおとの関わりは、職員の意識が変わり、円滑になったが、活動の中身作りや活動の流れなどに不都合な点がある。また、双方の利用者の増加を見込むと一緒の敷地内で事業展開は難しい。また、児童発達支援については、市内に待機児童が多いとのこと。利用者が増える見込みは今度多く、環境や職員体制を整え単体にしていく事を視野に入れていく。

1. 利用者状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	3	4	3	3	3	2	4	4	3	4	4	4	41
延利用者数	48	67	48	43	51	26	62	67	51	63	67	68	661
平均(人)	16	16.75	16	14.3	17	13	15.5	16.75	17	15.75	16.75	17	16.12

[新規利用者]が今年度、5名増えた。他事業所が営業日でない日はほぼ17人（定員）の利用がある。

※キャンセル待ちをしていただく方が増えてきたため、やむをえずお休みをされるときは、早めに連絡をいただけるようご本人様や保護者様にお願いをする。

2. 活動報告

	1週目	2週目	3週目	4週目
4月		春のしおり作り	野草のてんぷら	バーベキュー
5月	こいのぼりの色紙作り	春の遠足	サンドイッチ作り	フォークダンス
6月	あなたも写真家	初夏を体験しよう	たこやきパーティー	
7月	七夕飾りを作ろう	カラオケ		夏祭り
8月	スライムで遊ぼう		おはぎづくり	盆踊り
9月	フレームづくり		お月見団子を作ろう	
10月	ハロウィン工作	鬼饅頭を作ろう	カレーライス作り	秋の散策
11月	牛乳パック工作	寒さ吹き飛ばして ウォーキング	豚汁うどんづくり	手話を楽しもう
12月	クリスマスリース作り	クリスマスケーキ作り	クリスマスパーティー ピザづくり	
1月	お正月遊び&書初め	初詣	ホットプレートで キッシュを作ろう	カラオケ！！
2月	節分	ハーモニー祭に行こう	春巻きを作ろう	宝探しゲーム
3月	おひなさま工作	カラオケ	一汁三菜健康づくり	春を見つけに行こう

3. 成果

①わかりやすい日課

・毎月、1週目は工作、2週目は屋外活動、3週目は昼食づくり、4週目は体を動かす事をテーマに午前中の主活動を組み立て、個々が楽しく豊かな時間を過ごせるように支援してきた。午後からは、庭へ出て体を動かしたり、好きな音楽を聴いたり、友達とゲームをしたりと思い思いの時間を過ごしている。

- ➡毎回、一日の流れを（朝の会、主活動、昼食、休憩、午後活動、帰りの会といったように）ホワイトボードに提示し、進めることで、自主的に行動できる方が増えてきている。今何が行われ、次に何をするのかが分かるため、安心して過ごせている。
- ➡利用申し込み用紙の内容を見て、自分で参加する、しないと選択をして申し込んでくる方が増えてきている（自己決定）。

②昼食時の買い物体験

- ・「自分で欲しいお弁当・おやつを買う→お金を払う」という練習を行っている。
- ➡外出時、スーパーやコンビニ、お弁当屋さんなどでも順番を待つて並び、自分の欲しいものを買うことができています。

③午後の自由活動

- ・フリーの時間を設定し、個々の様子を見ている。個々に合わせた関わりをすることができている。
- ➡音楽を聞きたい方は「おんがく」っと、自分で『ラジカセを貸してください』と言える。
- ➡外が好きな方は、庭に出て散歩をしたり、支援者と一緒にフリスビーやボール遊びをして体を動かしている。
- ➡支援員と話したい方もゆっくりおしゃべりができる。
- ➡利用される方の障害特性が様々でニーズも多様になってきているため、午前中の主活動だけではフォローできない部分を、自由活動の中で補うことができています。
- ➡「何かをしなくてはいけない時間」ではなく『何もしたくなければ、しなくてもいい時間』の提供ができています。
- ➡ゆっくりと落ち着いた時間（ポレポレ）の提供ができています。

4. 見えてきた課題

- ①近年、自閉症の方の利用が増えてきている。支援のスキルアップを図り、多様なニーズにこたえられるようにしていく。
- ②その方のペースでゆったりとかかわり、寄り添う中で、その方が何がしたいかが見えてくるため、個別の記録をしっかりとっていくことが必要。
- ③専属の職員がいないため、各回担当職員それぞれが、積極的に事前準備や打ち合わせ時間を作り支援内容の充実を図っていく。
- ③ 人員不足。法人内で協力要請を行っていく。